



観 光 竜 王

Sight seeing RYUO

第79号

★
発行
竜王町観光協会

〒520-2592
滋賀県蒲生郡竜王町大字小口3番地
竜王町総合庁舎内1F
TEL 0748-58-3715
FAX 0748-58-3730
https://ryuoh.org
E-mail info@ryuoh.org



photo: 竜王町公民館撮影

「アフターコロナの観光振興」



竜王町観光協会

副会長 清水 正作

新年あけましておめでとうござ
います。
皆さまには、輝かしい新年をお
揃いで迎えのことと心からお祝
い申し上げます。

平素は、観光協会の事業全般に
格別のご理解とご支援、ご協力を
賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、前年からの新型コロナウイルス
ウイルス感染症の拡大からワクチ
ン接種が浸透しましたが、依然厳
しい状況が続き一旦終息の兆しが
見えましたが、第六波が懸念され
ます。

そのような状況下、インバウン
ド効果は全く期待出来ず、国内外
の経済状況は予断を許さず、観光
協会も三密を避けたアウトドアに
活路を見い出さざるを得ません。

① 組織及び会員の定義変更など体
制の刷新

② 一近江の聖徳太子魅力発信事
業」として、妹背の里での講談
及び講演会の開催

③ 「川守城」と「星ヶ崎城」の御
城印の制作販売

④ 町内飲食店で使用できる「近江
うし丸クーポン第2弾」の発行

⑤ 雪野山、鏡山ハイキングコース
の整備準備と新コースの開拓の
検討

⑥ 三井アウトレットパーク滋賀竜
王におけるイベント活動の推進
⑦ 主要都市での商談会等の観光誘
客活動の実施
などを推進致しました。

今後につきましては、アフター
コロナを見据え、観光施設や各種
団体及び皆様との連携を密にし
て、豊かな観光地域資源の再構築
を図る必要があります。

キーワードとして、近江牛・近
江米・果樹などの農畜産物や観光
施設並びに豊かな自然や史跡、苗
村祭り・火祭りやケンケト祭りな
どの地域で守り継がれた伝統行事
があります。

また、田植え・稲刈り・果樹狩
り体験などの観光農業も魅力的で
可能性を秘めており如何に連携し
て行くかにより、総合観光力が問
われています。

今年「環境王国」の認証を目
指し、自然環境と農業のバランス
が保たれ農産物や特産品のレベ
ルアップ効果も見込まれSGDs
(持続可能な開発目標) 活動の推
進の一助にする所存です。

末筆になりましたが、皆様のご
健勝とご多幸並びにご活躍を祈念
いたしまして新年の挨拶とさせて
いただきます。

八幡やんやなだっ



歴史倶楽部

西村 久枝氏
(鵜川)

川守城跡に住む者を、以前川守の人たちから、時々「城屋敷の人」と呼ばれていた頃があり、私はそこで生まれ育ちました。

福本家四軒を囲む田んぼは、古来は川守城の濠であり、当時は通称「濠田」と呼ばれ、稲・裏作など作付けされてきました。私の祖母は、お手伝いさんとその田の這い草をしていた時、強い雷に遭い「ピカー」という稲光とともに泥深い土にのめり込みました。黒塗りになったお互いの顔が、焼け焦げたと勘違いして体が沈んでいく恐怖を感じたとよく話してくれました。濠なる土地の由縁であろう。

さて、吉田出雲守代々の居城として栄えた川守城の城中に鎮座されていた歴史ある八幡神社とは幼少の頃知る由もなく、春には土手に登り土

筆やつばなを摘み、夏には高い木立に鳴く蝉取り、境内では「けんば」や「かくれんぼ」と恰好の遊び場でした。

一方、霊験あらたかな社は、村人の篤い信仰によって長い間護られてきました。中でも氏子による毎日の燈明はもとより、月初めの櫛の奉納、迎春の準備など全ての管理に心を砕かれ、川守の人たちの支えによって受け継がれてきたことは言うまでもありません。

八幡神社界限に住む人たちは「八幡さん、八幡さん」と親しく呼び崇拝していました。祖母を始め、近くのお年寄りも朝晩の礼拝は欠かさずとなく、生きる拠り所とされてきました。私は、身体が弱かったので快方に向かう度に、八幡さまのお陰と祖母は疑いませんでした。

氏子の大会である八幡さんのお祭りは子供の頃楽しみのひとつでした。待ちに待った仲秋の名月の当日、男性は境内の清掃や神殿の奉納、女性は昼食の準備に大わらわ。その季節に穫れる野菜たっぷりの実が入った大鍋、出汁は泥鰌（どじょう）、豆腐とうどんが加わり、やがてふつふつと煮たぎる。お酒の宛は、里芋やいんげん豆、結び干瓢の煮物、いさぎの煮付け、ずいきの酢の物などの付き出しとなります。頭屋は輪番制で座敷は開け放され、福本家四軒の家族全員と井上平在工門（発足当時の庄屋さん）の子孫が総氏子、顔が揃ったところで開宴となる。屈託のない話や笑い、何の気兼ねもなく食べ放題、決して食べ物が豊富な時代ではなかっただけに、あの味の美味しさは今も忘れることができませぬ。この行事が末永く楽しみとともに続けられる昔の人の知恵だったかも知れません。

今は生活も様変わりして、今後は形に拘ることなく長く続けられるようお祭りの内容も改善されたと聞いています。この神社も多数の人々の浄財によって改築されており、由緒ある旧跡を保存し、末永く後世に伝えていこうとする地元の人たちに更めて感謝し、幼い頃の自身を振り返るひと時を頂いたことを嬉しく思います。

余談ですが、里の家には大きな松の木の手切り株が三つありました。一番新しい切り株は、戦中供出されたと聞いています。その株は大人の背丈以上あり、三分の一は根が露出し、中は空洞になっていて子供の隠れ場

であったり、防空壕となったことも憶えています。根の三分の二は土に覆われていて苔などが生え、滑り台になりました。私の叔母が弓削に嫁ぎ、この松を目当てにいそいそと里帰りましたようです。相当の太木であったことが窺えます。

川守城は土塁だったとも聞いています。里の家の裏木戸から石段を下りた西側は広い粉干し場と農小屋があり、その北側は低い土手になっていて、木やしのべが生えていました。土塁ならぬ昔の名残りに結びつけ、先祖が大切に育ててきた松と城を心の屏風絵とし、ここが本丸か、このあたりが馬小屋だったかと、彷彿してくる歴史を楽しませて頂いたことも加えておきます。



「鏡山と各務支考」



竜王町にある鏡山は歌枕である。歌枕とは和歌の中に古来多く詠み込まれた名所。これは同町観光協会HPに格調高く述べられているので引用したい。

鏡山は山頂付近に雨の神・水の神ともいわれる八大竜王の一つ摩耶斯竜神（まなしりゅうじん）が竜王宮として祀られ、霊山竜王山としても有名であるが、詩興豊かなこの秀峯は和歌、俳句、漢詩に百余首と幾多墨客の歌枕となり近江の名山に数えられた歴史と文化の里山である。

主な作品として

●鏡山君に心やうつらむいそぎ たたれぬ旅衣かな （藤原定家）
 ●かがみ山 老いぬるかげを はづかしみたれこめてはが行くと見るらん （本居宣長）

●鏡山 いざ立ち寄りて 見てゆかむ 年経ぬる身は老いやしぬると（大

友黒主）以下略

いづれも歌人たちが鏡山から鏡を連想し、自らの心象風景を詠んだもの。同山の西麓を東山道がはしり都を往来する旅人たちも、ここを通る度こうした歌を思い起こしたに違いない。

さて、各務支考の句に「ほととぎす鳴くやちらりと鏡山」がある。支考は、江戸時代前期美濃（岐阜県）出身の俳人で、松尾芭蕉の門下生であり蕉門十哲の一人。師の芭蕉から軽薄なお調子者と見られていたらしいが、芭蕉が大坂で臨終の床にあつたときは親身に看病し遺言書の中で芭蕉から感謝の言葉を贈られるような誠実な一面があった。芭蕉死後の活躍は目覚ましく東西に行脚して門弟を獲得し、また度々芭蕉追善の法会を催して蕉門俳諧の指導者としての地位を固め、美濃派と称される一大勢力を築いた。

俳風は『俗談平話』蕉風の俳論で、俳諧は日常の俗語・話し言葉を用い、それを雅語に匹敵するものに高めて風雅を表すべきだとする考えであった。

た。ただ、大衆受けするこの俳論はそれだけに俳諧の低俗化は避けられず、後に俳諧低俗化の張本人と見なされた。

ことほどさように、この句も短い十七文字の中にちらりとインパクトのあるオノマトペを挟んでいる。古来歌人がいづれも鏡山を詠み手の内省を鏡に置き換えて格調高く心象風景を詠んだものが多い中、なんと、この句は「ちらり」である。支考は俗談平話を矜持するといえ、何故ここでちらりなのだろうか？普通に「ほととぎす雲の間にまに鏡山」くらいでいいものを。この句を一度吟じると頭から離れない。まさに『連想』の陥穽（落とし穴）に放りこまれた気分である。陥穽の本質、つまりちらりて脳裏に浮かんだのは眼前の鏡山でなく、別の風景、例えば江戸享保期に活躍した第四代大関鏡山沖野右衛門の取組ではなかったか？！相撲賭博好きの読み手が本場所千秋楽を翌日に控え、次第に力の衰えが目立ってきた鏡山の優勝に賭けるか、賭けないか。逡巡する中、この

山本 茂氏（美松台）

鏡宿にあつて時鳥の声を聴き、勝利を確信したということではないか。その鳴き声（聞きなしと言う）とは『テッペンカケタカ・テッペンカケタカ』つまり鏡山の時鳥は、テッペン（トップのこと）賭けたか?!と念を押した声だったのである。

まるで落語の落ちになってしまった。お後がよろしいようで：（文中後半『連想』の陥穽部分は、筆者の妄想です。ご容赦の程）

お詫び シリーズふるさと探訪の採番に誤採番が判明。正規番号に変更。



今年と来年は聖徳太子!?

竜王町観光協会



今年二月二十二日(火)は聖徳太子が薨去(こうきょ)されて一四〇〇年を迎えます。全国には聖徳太子の開基や縁起、言い伝えが数多くありますが、特にこの東近江地域に集中しています。このことから、東近江地域(東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町)では、開基や縁起のある十一の社寺や二市二町、商工会議所、商工会、観光協会が連携し、一昨年十月に「聖徳太子一四〇〇年悠久の近江魅力再発見委員会」を立ち上げ、本年二月から来年十二月までの間各種イベントを催します。聖徳太子薨去一四〇〇年を機に、聖徳太子とこの地域との関りや足跡等を全国に情報発信し、観光促進と観光誘客の増強を目指し、この地域を盛り上げようと考えています。また、この事業へのサポーターや協賛される方々を募集しています。詳細については、商工会や観光協会までお尋ねください。

竜王町での聖徳太子の開基や縁起、言い伝えは、小口の観音禅寺の御本尊十一面観世音菩薩や駕輿丁地蔵堂の延命子安地蔵尊、須恵観音堂の千手観世音菩薩、弓削阿弥陀寺(瑞光寺)の釈迦如来、岡屋吉祥寺観音堂の十一面観世音菩薩が聖徳太子によって刻まれたという言い伝えがあります。他にも雲冠寺や法満寺、法満寺五別院の開基や縁起の言い伝えがあります。このような情報を上手く観光に繋げ、観光誘客獲得を目指していきます。

「聖徳太子一四〇〇年悠久の近江魅力再発見委員会」の主なイベント。プレイベントとして昨年十月一日(金)から十一日(月)まで太郎坊宮、長光寺、正明寺、観音禅寺でレーザーサーチライト照射が夕刻に行われました。また、同日から十一社寺による近江の聖徳太子限定霊跡御朱印紙授与が開始されました。十一月十三日(土)午後には妹背の里にて四代目玉田玉秀齋氏による講演「近江と聖徳太子」とNPO法人歴史資源開発機構主席研究員大沼芳幸氏による講演会「近江ゆかりの聖徳太子」を開催しました。令和四年二月二十二日(火)午前十時から願成就寺(近江八幡市)にて聖徳太子一四〇〇年御遠忌法要、近江十一社寺記念事業決起法要が営まれます。翌二十三日(水)には願成就寺と

日牟禮八幡宮(近江八幡市)で舞楽「蘇莫者」が奉納されます。オープニングイベントとして令和四年五月二十二日(月)午前十時から観音正寺(近江八幡市)にて観音正寺開基聖徳太子一四〇〇年御遠忌開闢法要が営まれます。中日イベントとして令和四年十月一日(土)から十六日(日)まで百濟寺(東近江市)にて御本尊植木観音の特別開帳と極彩色聖徳太子孝養像の特別公開が行われます。聖徳太子一四〇〇年神仏習合法要が令和五年五月七日(日)(時間未定)に太郎坊宮(東近江市)にて営まれます。聖徳太子一四〇〇年エンディングイベントとして令和五年十二月三日(日)午前十時から瓦屋寺(東近江市)にて御本尊千手観世音菩薩閉帳法要が営まれます。

また、これらのイベント以外にもこの期間中、各社寺では御遠忌法要や秘仏の御開帳、掛け軸の公開等を検討中です。是非この機会をお見逃しなく。詳しくは聖徳太子一四〇〇年悠久の近江魅力再発見委員会まで

https://omi-st1400.com)



ご利用期限迫る!!

昨年八月から取扱いを開始しました「竜王町飲食店応援事業」で各ご家庭に郵送いたしました近江うし丸クーポンのご利用期限が、今年一月末日となっております。今一度、クーポンをご確認いただき、期限内のご利用をお願いします。二月一日以降のご利用は出来ませんので宜しくお願ひします。(竜王町観光協会)



あとがき

一昨年一月から感染が始まった新型コロナウイルスは、紆余曲折を経ながら感染防止対策の徹底やワクチン接種のお陰で昨年十月より全国で緊急事態宣言等が解除され、人の動きも漸く動き出しました。しかし、ワクチン効果も時間経過とともに減少することから、新たに三回目のワクチン摂取が開始されます。また、新変異株オミクロン株も気になる場所です。引き続きお一人おひとりの感染防止に向けた行動が大切です。

観光協会も昨年十月から各種イベントを開催し、多くの方々にご参加いただき、数多くの笑顔や歓びの声を頂戴しました。今後とも、感染防止を行い、観光振興を推し進めて参ります。特に、今年と来年は二市二町が連携して繰り広げる『聖徳太子一四〇〇年悠久の近江魅力再発見』事業が本格化します。地域の方々や企業様には、この事業にサポーターや協賛としてご参加を賜り、この東近江地域から全国に情報発信しましょう。(副会長 邑地礼子)

